

情報収集をするときは、異なる**キーワード**（検索語）で繰り返し検索を行うことが重要です。

「思うように情報が集められない。」

そんなときは、キーワードを工夫してみましょう。

関連する用語を探す

あるキーワードに関連する語として、**類義語**、**上位・下位概念**などがあります。

類義語

子供 ⇔ 幼児、児童、小学生、生徒

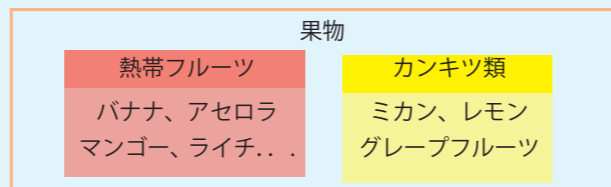
河岸 ⇔ 沿岸、海岸、水辺

例えば「子供の教育」に関して調べるとき、その「子供」というキーワードが、小学生なのか、幼児なのかを明確にするために、類義語を上手に使う必要があります。

また、一般的に使われる用語と、学術用語（学術論文中で使われる語）が異なる場合がありますので、注意が必要です。

例) 一般的な用語：大学 / 学術用語：高等教育

上位概念・下位概念



例えば「ミカン」に関して調べたいとき、「ミカン」というキーワードで検索してもヒットしなかった場合、「カンキツ類」というキーワードで検索して出てきた情報の中に「ミカン」のことが書いてあるかもしれません。さらに「カンキツ類」でもヒットしないときは、「果物」というキーワードを使って検索することを考えてみましょう。

表記方法を注意する

漢字仮名交じり文や、外来語の場合など、その表記の仕方に注意する必要があります。

漢字仮名交じり文

子供 ⇒ 子ども、こども

短縮形が一般化した例

スマートフォン ⇔ スマホ

コンビニエンスストア ⇔ コンビニ

外来語の表記

バイオリン ⇔ ヴァイオリン

コンピューター ⇔ コンピュータ

オリンピック ⇔ 五輪

アメリカ ⇔ 米国

検索エンジン(google, Yahoo! など)では、このような「表記揺れ」を自動的に推測して検索してくれる場合がありますが、レポートで使う主なデータベースにはこのような機能がありません。後述の**OR検索**を使うと良いでしょう。

このような関連用語、表記の方法を探すツールとして、辞書や事典が有用です (p.5 参照)。検索キーワードに迷ったら、辞書や事典を調べる癖をつけましょう。紙の本だけでなく、大学内のPCからは、辞書・事典のデータベースとして『Japan Knowledge』が使えます (p.28 参照)。

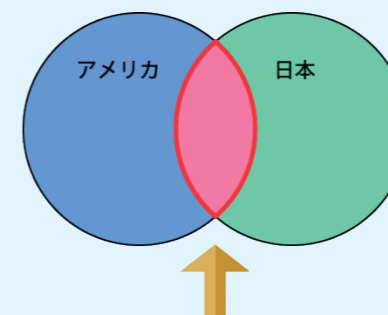
AND/OR 検索を使ってみよう

複数のキーワードで検索したいとき、「このキーワードがすべて含まれている」あるいは「このキーワードのうちどれか一つでも含まれていれば良い」と予め決めておくことが可能です。レポートで使う主なデータベースでは、主に下記のような方法で、より自分に必要な検索結果を得ることができます。

AND 検索

AND 検索は、入力したキーワードの**すべて**が含まれる検索方法のことを指します。

例) 検索式 = アメリカ△ AND △日本 (「△」はスペースを入れる、の意)



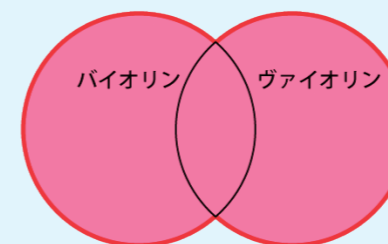
一般的にはキーワードとキーワードの間にスペースをあけることでAND検索となります。

検索結果として、赤太枠部分の「アメリカ」と「日本」両方のキーワードが含まれる情報が表示されます。

OR 検索

OR 検索は、入力したキーワードの**どれか一つ**が含まれる検索方法のことを指します。類義語や表記揺れを一度に検索したい場合などによく使われます。

例) 検索式 = バイオリン△ OR △ヴァイオリン (「△」はスペースを入れる、の意)



使用するデータベースによってOR検索の仕方は異なります。

GLIM/OPAC → 「+」プラス記号

CiNii Articles
CiNii Books → 「△ OR △」または「△ | △」

検索結果として、赤太枠部分の「バイオリン」と「ヴァイオリン」どちらか一つ、または両方のキーワードが含まれる情報が表示されます。

フレーズ検索を使ってみよう (GLIM/OPAC)

検索結果が多すぎてしまう場合は、フレーズ検索が便利です。フレーズ検索とは、単語をひとまとまりとして検索する方法です。

例) 検索式 = #* フレーズ検索したい単語 *
シャープ・アスタリスクフレーズ検索したい単語アスタリスク

◆ フレーズ検索を使わずに「日本国憲法」で検索すると、『日本の国の憲法』も『日本国憲法の行方』のいずれも検索結果として検索されます。
⇒ 「日本」「国」「憲法」の単語が含まれているものが検索されます。

◆ フレーズ検索を使って「#* 日本国憲法 *」で検索すると、『日本の国の憲法』は検索結果に出ず、『日本国憲法の行方』は検索されます。
⇒ 「日本国憲法」のひとまとまりのみ含まれているものが検索されます。